

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500351	事業の開始年月日	2014年10月1日	
		指定年月日	2020年9月1日	
法人名	社会福祉法人みやぎ会			
事業所名	グループホームにこトピアいわで ユニット名：百々			
所在地	(〒 989-6435) 宮城県大崎市岩出山字浦小路40-14			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年12月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、全居室が個室対応のため個人のプライバシーが守られております。また、入居者一人ひとりの時間の過ごし方を大切に、自宅で暮らしていた時と同じように居室には使い慣れた物、なじみのある物を用意してもらうなど、環境をあまり変えないように配慮しています。皆で賑やかに過ごしたい時があれば、1人でゆっくりと過ごしたい時もあるので、その日その日の入居者様の気分に合わせてケア、個人を尊重したケアを心掛けております。同一敷地内にある特別養護老人ホームとも交流があり、コロナ流行以前は夏祭りや敬老会等の行事は合同で行い、皆様に楽しんで頂いておりました。現在はそうした大きな行事やイベントというよりは、にグループホーム単体で利用者様の状況に合わせて季節ごとの行事やイベントを企画し、楽しんで頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月20日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

〈法人理念〉「私たちSG GROUPは、ホスピタル精神(おもてなし)をもち、医療・福祉・保健を通じて地域社会の人々の幸せに貢献します。患者・利用者・ご家族に喜ばれ感謝される素晴らしいホスピタル環境づくりとホスピタリティある仕事を徹底して行います。」

〈グループホームにこトピアいわで理念〉「明るく やさしく 清潔に」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人である「社会福祉法人みやぎ会」は、青森県八戸市三八城(みやぎ)に1999年4月に設立され、青森、岩手、宮城、福島 of 東北4県で福祉事業を提供している。「東北医療福祉事業協同組合(SG)」の一員である。入居者が、個人の尊厳を保持しつつ、地域社会で自立した生活を営むことができるよう支援することを目的としている。2020年9月に開所した「グループホームにこトピアいわで」は、陸羽東線岩出山駅に近い住宅地にある2階建2ユニットの事業所である。近くに内川が流れ、春には桜を愛でながら散歩ができる。また、周辺には商店街や病院、お寺、小学校などがあり、同法人の特別養護老人ホームが隣接している。

【事業所の優れている点・工夫点】

法人理念のもと、事業所独自の理念を職員全員で作成し、日々入居者や家族との関わりを大切に実践に繋げている。コロナ禍で様々な交流が制限される中、地域の行事に参加するなど、町内会や地域住民との交流を大切にしている。隣接している特別養護老人ホームの交流ホールを地域住民のイベント会場(百歳いきいき体操クラブなど)として提供している。地域住民が事業所の畑の草取りを行ってくれるなど、良好な関係性ができている。運営推進会議には地域から沢山の人が参加しており「運営推進会議」が堅苦しいとの意見から、「にこにこ会議」に名称変更するなど、出された意見や提案を事業所の運営に活かしている。法人が契約している訪問看護ステーションとは24時間オンコールの体制があり、入居者や家族、職員の安心に繋がっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームにこトピアいわで
ユニット名	百々

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームにこトピアいわで）「ユニット名:百々」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い、理念の意識付け、共有し実践につなげている。	事業所の理念「明るく やさしく 清潔に」は、開所時に職員で話し合い決めたものである。理念はリビングや事務室に法人理念と共に掲示し、毎朝唱和している。年度末に事業計画と一緒に理念も見直している。職員は各理念を念頭に、いつでも笑顔で入居者や家族に声がけができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、広報誌等か地域のイベントの情報を収集している。岩出山100縁商店街や互市に参加し、地域との交流を行っている。	町内会に加入している。春と秋に駅前で開催される「岩出山100縁商店街」や「互市」に車いすの入居者も一緒に出かけ、屋台や出店を楽しんだり、オレンジカフェの作品展示を見学するなど、地域の人達と交流している。町内会から運動会の誘いがあり、高齢者や障害者でも参加できる「ポッチャ」への参加の提案があったが、今年はコロナ禍で見合わせた。隣接する同法人の特養の交流ホールでは、地域の「百歳いきいき体操クラブ」などの会場として提供されている。クラブのメンバーが年数回草取りボランティアとして来てくれる。また、汚物処理にと新聞紙なども持参してくれる。近くの高校生のフィールドワーク「高齢化社会を学ぶ」職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方々や運営推進会議の方々に対して、グループホームの活動や生活の様子などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告し、意見の聴取、活動への反映を検討している。	メンバーは、町内会長、区長、民生委員、市職員、地域包括職員、特養職員、事業所職員である。同法人の特養と事業所が合同で奇数月に年6回開催している。特養や事業所の現況や近況報告、行事の様子などはスライドを使って報告され、メンバーからの質疑応答など活発な意見交換が行われている。メンバーから「運営推進会議」の名称が堅苦しいという意見が出され、「にこにこ会議」に変更した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新時や区分変更申請時、生活保護の利用等、市町村担当者と日頃からやり取りを行い、協力関係が築けている。	運営推進会議に市職員、地域包括職員が参加しており、事業所の現状や課題を把握し、協力関係が築かれている。市や地域包括から研修の案内などがある。生活保護課には手続きの相談をしたり、半年毎にケースワーカーの訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は原則として身体拘束を禁止している。玄関の施錠は防犯目的のため施錠している。	「身体拘束の適正化等のための指針」を作成し、3ヶ月に1回委員会を開催している。年2回、身体拘束防止と虐待防止の研修を動画を視聴しながら行っている。また、「身体拘束ラウンドチェックシート」で日々のケアについて自己チェックしている。外出傾向がある入居者には、職員が同行し散歩に出かけ、気分転換を図っている。玄関は防犯目的のために1日を通して施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や不適切ケア等について内部研修を行い虐待防止に努めている。また、管理者も不定期でラウンドし、不適切なケアや言動があった場合にはその都度注意指導を行っている。	不適切な言葉遣いやケアを見かけた場合には、その都度管理者や主任が指導し、ミーティングでも話し合っている。ユニット毎にロールプレイングで声かけの仕方や対応について学んでいる。月1回「虐待の目防止チェックリスト」で自分自身を振り返っている。管理者や主任は、職員の精神的負担軽減のため、面談や話しやすい関係作りを心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の勉強会を実施し、業務に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際は読み上げ説明を行い、必ず質問や不安な点を伺ってその都度十分な説明を行い、ご理解、納得を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は、面会で来設時や電話等で要望を伺い、利用者からは直接表出された事項について、職員間で共有し処遇面等に反映させている。	家族会はない。面会時や電話連絡の時に意見や要望を聞き、申し送りノートに記載し、職員間で共有している。出された意見はユニット会議で検討し、実践に繋げている。事業所として第三者委員を選任し、地域住民の立場からの意見を得て運営に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者との面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また、毎月1回のユニット会議でも職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は、年2回の面談や毎月のユニット会議などで職員から意見や要望を聞いている。「休憩室でゆっくりくつろぎたい」という要望が出され、畳敷きに改装された。『コロナの抗原検査を週1回行っているが、体調不良時に出勤前に検査ができると良い』という意見から、抗原検査キッドを職員に配布することになった。法人は資格取得への勉強会や模擬テスト、資格取得費助成などの支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき、職場環境の整備に努めている。法人全体で「ノー残業デー」を設定したり、有給休暇取得の推奨など働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を計画的に実施し、個人の力量、経験に応じて受講させている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症実践者研修等の外部研修やグループ内の介護技術指導者研修、新採用者研修等同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。	隣接する同法人の特養とは、研修や行事を合同で行い日常的に交流している。同法人の他のグループホームとは、情報交流や人材支援などを行っており、他事業所の取り組みを知る機会になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前及び入所時には施設での生活の様子を伝え、利用者が不安に感じていることの聴取及び解消に向けて関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前及び入所時には家族の不安等に耳を傾け、その不安の解消に向けて関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で、ご本人やご家族の意向を考慮しつつ、現状を見極め、必要とされるサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを念頭に置き、職員はご本人が笑顔で過ごしていただけるように信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と情報共有することで一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出、電話等の手段を用いて、利用者と家族、友人等が交流する機会を尊重し、関係性の継続を支援している。	面会は予約制で行っている。入居者は地元に住んでいた人が多く、馴染みの場所を散歩したり、馴染みの商店で買い物を楽しんだりしている。家族との通院時にドライブや外食をする人や自宅に寄って来る人、週末には外泊する人もいる。理・美容の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の生活歴や性格、病気等考慮しながら利用者同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談を受けた際は、ご本人やご家族のフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の想いに耳を傾け、意向の把握に努めている。	日々の会話の中から入居者の希望や意向を把握するように努めている。把握したことは申し送りノートに記載し、職員間で共有し支援に活かしている。思いを言葉にできない利用者へは、日常生活の中での表情や仕草を見ながら声がけしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査でご本人やご家族に生活歴や生活環境の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方、心身状態、ADLを把握し、その人らしい暮らし方の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえ、職員とコミュニケーションを図りながら状態把握を行い、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	入居者や家族の意見を反映した介護計画を作成している。毎月のユニット会議のカンファレンスで入居者の状態をモニタリングし、半年ごとに見直している。入居者の状態が変化した際は、都度見直しを行っている。見直し後は家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトへの入力、ユニット会議でのケアの検討から状態変化等情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスが前提ではあるが、その上でご本人やご家族のニーズにできる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される100縁商店街や互市に歩ける方は歩いて参加し、豊かな暮らしに向けて支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を大切にしている。その上で職員やご家族の協力のもと、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者や家族が希望する医療機関への受診を支援している。通院は基本家族が付き添い、看護師が要約した入居者の状態についての情報を持参し、適切な医療が受診できるよう支援している。受診後はケース記録や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。特養の看護師が週1回訪問し、入居者の健康管理や職員の相談を受け助言している。また、法人が契約している訪問看護ステーションと、24時間オンコールの体制が整えられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との情報共有を行い、適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報共有を行い、安心して治療を受けていただけるように努めている。また、入院中の情報共有を行い、退院後もスムーズに支援できるように医療機関と調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は看取りを行っていないことは申し込みの時点で説明し、ご理解頂いている。重度化した場合はご家族、かかりつけ医、訪問看護師等と相談し、医療機関への転院など連携して支援に取り組んでいる。	入居時に、入居者や家族に事業所では看取りを行っていないことを説明し、同意を得ている。重度化した場合には、家族やかかりつけ医、訪問看護師と相談し、医療機関への転院や同法人の特養への入所など連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、指針等は整備してあるが、定期的実践的な訓練は行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯想定での避難訓練を年2回実施している。	火災・風水害・地震・原子力災害対応マニュアルが作成されている。避難訓練は年2回、内1回は夜間想定で行われている。地域住民の参加が得られていないので、運営推進会議で議案にし検討している。設備点検は年2回、業者が行っている。非常食は3日分備えており、隣の特養にローリングストック方式で備蓄している。感染症対策委員会が中心になり、防護服の着脱などの訓練を行い、蔓延防止に取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室する際はノックや声掛けをしたり、入浴や排泄の際にはプライバシーに配慮した対応を行っている。	接遇やプライバシー保護の研修を年1回行い、一人ひとりの尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。居室への入室は、ノックと声がけを行い、排泄介助や入浴介助は、プライバシーに配慮して行っている。呼び名は、苗字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物や入浴時の衣類の選択等自己決定ができるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて入浴、食事、離床時間等と考慮し希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択等ご本人の意思を尊重している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行うが、後片付けや食器拭きなどを利用者様に手伝ってもらうこともある。誕生会等の行事の際は手作りおやつ調理を行っている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、隣の特養の給食室で調理したおかずが届く。ごはんと汁物は事業所で作り、入居者の状態に合わせて、きざみ食やとろみ食などに対応している。毎月、季節に合わせて郷土食を楽しんだり、誕生日には手作りケーキでお祝いしている。事業所の畑で収穫した野菜や地域住民からの差し入れの食材も調理に活かし楽しんでいる。入居者は、おしぼりたたみや食器拭きなど、できることを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスについては施設の管理栄養士が対応しており、相談やアドバイス頂いている。水分補給は1日1500～1800mlを目安に摂ることができるように進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きを行うことができる方には声掛けし、できない方に対してはブラッシング等一部介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しタイミングに合わせ声掛けをしたり、日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表で一人ひとりの状態やタイミングを把握し、声かけやトイレに誘導している。夜間帯は、ナースコールや人感センサーを活用したり、睡眠を重視し大きめのパッドを使用したりしている。便秘対策として、食事に牛乳など乳製品を摂り入れ、水分量のチェックもしている。便秘気味の入居者には、看護師に相談して医師の処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促せるように水分補給に努めている。また、必要に応じて服薬調整を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2回の入浴を原則としている。入浴時間や体調に配慮し、声掛けの工夫をしながら楽しんで入浴できるように支援している。	入浴は、週2回が基本で、午前か午後、入居者が希望する時間帯で行っている。湯は一人ひとり替えて、入浴剤なども活用して楽しんでいる。入浴は入居者とゆっくり話ができる場になっている。入浴拒否の入居者には無理強いせず、声かけを工夫して脱衣所に誘導したり、時間をおいて声かけをしたりしている。体調の悪い場合には清拭や足浴に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた生活習慣や体調等を考慮して休息したり、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の内服状況の確認ができるように一覧にし、服薬状況の確認と症状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や残存機能を活かし、役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体制が許す時には、散歩や外出を個別に行っている。また家族と協力し、食事へ出掛けることもある。	天気の良い日は、事業所のそばを流れる内川周辺を散歩したり、近くの商店街に買い物に出かけたりしている。近隣の景勝地にドライブに出かけ楽しむこともある。通院時に、家族と一緒に外食を楽しむ人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では入所の際、現金の所持や管理をお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話や手紙のやり取りできるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有空間には季節に合わせた装飾をし季節感を感じられるようにしている。明るさや温度・湿度は利用者の意見を聞きながら職員が管理している。	リビングは明るく清潔に保たれている。壁には、季節の飾り付けや入居者の手作り作品などが飾られている。時計や日めくりカレンダーは見やすいよう、見当識に配慮し取り付けられている。入居者がゆっくり過ごせるよう座席も工夫している。YouTubeで懐かしい番組や最近の歌番組など見ながら、一緒に歌って楽しんでいる入居者もいる。温・湿度管理や換気は職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールでは仲の良い利用者様同士を隣同士の席にしたり、1人になりたい時は居室で過ごしたり、仲の良い利用者様と居室で過ごされることもある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやぬいぐるみ等使い慣れた物や好みの物を持参していただいたり、工作等自分で作ったものを飾ったり、居心地の良く過ごせるように工夫している。	居室にはベッド、整理タンス、洗面台、エアコンが設置されている。ベッドや家具の場所は、入居者の希望や導線を考えて配置している。入居者はテレビや馴染みの家具などを持ち込み、その人らしい部屋にしている。温・湿度管理や衣替えは居室担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除やリネン交換、下膳等できることを活かすように努めている。居室やトイレが分からなくなる利用者様に対しては張り紙やきっかけで思い出せるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500351	事業の開始年月日	2014年10月1日	
		指定年月日	2020年9月1日	
法人名	社会福祉法人みやぎ会			
事業所名	グループホームにこトピアいわで ユニット名：咲良			
所在地	(〒 989-6435) 宮城県大崎市岩出山字浦小路40-14			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年12月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、全居室が個室対応のため個人のプライバシーが守られております。また、入居者一人ひとりの時間の過ごし方を大切にし、自宅で暮らしていた時と同じように居室には使い慣れた物、なじみのある物を用意してもらうなど、環境をあまり変えないように配慮しています。皆で賑やかに過ごしたい時があれば、1人でゆっくりと過ごしたい時もあるので、その日その日の入居者様の気分に合わせてケア、個人を尊重したケアを心掛けております。同一敷地内にある特別養護老人ホームとも交流があり、コロナ流行以前は夏祭りや敬老会等の行事は合同で行い、皆様に楽しんで頂いておりました。現在はそうした大きな行事やイベントというよりは、にグループホーム単体で利用者様の状況に合わせて季節ごとの行事やイベントを企画し、楽しんで頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月20日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 <法人理念>「私たちSG GROUPは、ホスピタル精神(おもてなし)をもち、医療・福祉・保健を通じて地域社会の人々の幸せに貢献します。患者・利用者・ご家族に喜ばれ感謝される素晴らしいホスピタル環境づくりとホスピタリティある仕事を徹底して行います。」 <グループホームにこトピアいわで理念>「明るく やさしく 清潔に」</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人である「社会福祉法人みやぎ会」は、青森県八戸市三八城(みやぎ)に1999年4月に設立され、青森、岩手、宮城、福島の東北4県で福祉事業を提供している。「東北医療福祉事業協同組合(SG)」の一員である。入居者が、個人の尊厳を保持しつつ、地域社会で自立した生活を営むことができるよう支援することを目的としている。2020年9月に開所した「グループホームにこトピアいわで」は、陸羽東線岩出山駅に近い住宅地にある2階建2ユニットの事業所である。近くに内川が流れ、春には桜を愛でながら散歩ができる。また、周辺には商店街や病院、お寺、小学校などがあり、同法人の特別養護老人ホームが隣接している。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 法人理念のもと、事業所独自の理念を職員全員で作成し、日々入居者や家族との関わりを大切に実践に繋げている。コロナ禍で様々な交流が制限される中、地域の行事に参加するなど、町内会や地域住民との交流を大切にしている。隣接している特別養護老人ホームの交流ホールを地域住民のイベント会場(百歳いきいき体操クラブなど)として提供している。地域住民が事業所の畑の草取りを行ってくれるなど、良好な関係性ができている。運営推進会議には地域から沢山の人が参加しており「運営推進会議」が堅苦しいとの意見から、「にこにこ会議」に名称変更するなど、出された意見や提案を事業所の運営に活かしている。法人が契約している訪問看護ステーションとは24時間オンコールの体制があり、入居者や家族、職員の安心に繋がっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームにこトピアいわで
ユニット名	咲良

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームにこトピアいわで）「ユニット名:咲良」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い、理念の意識付け、共有し実践につなげている。	事業所の理念「明るく やさしく 清潔に」は、開所時に職員で話し合い決めたものである。理念はリビングや事務室に法人理念と共に掲示し、毎朝唱和している。年度末に事業計画と一緒に理念も見直している。職員は各理念を念頭に、いつでも笑顔で入居者や家族に声がけができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、広報誌等か地域のイベントの情報を収集している。岩出山100縁商店街や互市に参加し、地域との交流を行っている。	町内会に加入している。春と秋に駅前で開催される「岩出山100縁商店街」や「互市」に車いすの入居者も一緒に出かけ、屋台や出店を楽しんだり、オレンジカフェの作品展示を見学するなど、地域の人達と交流している。町内会から運動会の誘いがあり、高齢者や障害者でも参加できる「ボッチャ」への参加の提案があったが、今年はコロナ禍で見合わせた。隣接する同法人の特養の交流ホールでは、地域の「百歳いきいき体操クラブ」などの会場として提供されている。クラブのメンバーが年数回草取りボランティアとして来てくれる。また、汚物処理にと新聞紙なども持参してくれる。近くの高校生のフィールドワーク「高齢化社会を学ぶ」職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方々や運営推進会議の方々に対して、グループホームの活動や生活の様子などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告し、意見の聴取、活動への反映を検討している。	メンバーは、町内会長、区長、民生委員、市職員、地域包括職員、特養職員、事業所職員である。同法人の特養と事業所が合同で奇数月に年6回開催している。特養や事業所の現況や近況報告、行事の様子などはスライドを使って報告され、メンバーからの質疑応答など活発な意見交換が行われている。メンバーから「運営推進会議」の名称が堅苦しいという意見が出され、「にこにこ会議」に変更した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新時や区分変更申請時、生活保護の利用等、市町村担当者と日頃からやり取りを行い、協力関係が築けている。	運営推進会議に市職員、地域包括職員が参加しており、事業所の現状や課題を把握し、協力関係が築かれている。市や地域包括から研修の案内などがある。生活保護課には手続きの相談をしたり、半年毎にケースワーカーの訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は原則として身体拘束を禁止している。玄関の施錠は防犯目的のため施錠している。	「身体拘束の適正化等のための指針」を作成し、3ヶ月に1回委員会を開催している。年2回、身体拘束防止と虐待防止の研修を動画を視聴しながら行っている。また、「身体拘束ラウンドチェックシート」で日々のケアについて自己チェックしている。外出傾向がある入居者には、職員が同行し散歩に出かけ、気分転換を図っている。玄関は防犯目的のために1日を通して施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や不適切ケア等について内部研修を行い虐待防止に努めている。また、管理者も不定期でラウンドし、不適切なケアや言動があった場合にはその都度注意指導を行っている。	不適切な言葉遣いやケアを見かけた場合には、その都度管理者や主任が指導し、ミーティングでも話し合っている。ユニット毎にロールプレイングで声かけの仕方や対応について学んでいる。月1回「虐待の目防止チェックリスト」で自分自身を振り返っている。管理者や主任は、職員の精神的負担軽減のため、面談や話しやすい関係作りを心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の勉強会を実施し、業務に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際は読み上げ説明を行い、必ず質問や不安な点を伺ってその都度十分な説明を行い、ご理解、納得を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は、面会で来設時や電話等で要望を伺い、利用者からは直接表出された事項について、職員間で共有し処遇面等に反映させている。	家族会はない。面会時や電話連絡の時に意見や要望を聞き、申し送りノートに記載し、職員間で共有している。出された意見はユニット会議で検討し、実践に繋げている。事業所として第三者委員を選任し、地域住民の立場からの意見を得て運営に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者との面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また、毎月1回のユニット会議でも職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は、年2回の面談や毎月のユニット会議などで職員から意見や要望を聞いている。「休憩室でゆっくりくつろぎたい」という要望が出され、畳敷きに改装された。『コロナの抗原検査を週1回行っているが、体調不良時に出勤前に検査ができると良い』という意見から、抗原検査キッドを職員に配布することになった。法人は資格取得への勉強会や模擬テスト、資格取得費助成などの支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき、職場環境の整備に努めている。法人全体で「ノー残業デー」を設定したり、有給休暇取得の推奨など働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を計画的に実施し、個人の力量、経験に応じて受講させている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症実践者研修等の外部研修やグループ内の介護技術指導者研修、新採用者研修等同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。	隣接する同法人の特養とは、研修や行事を合同で行い日常的に交流している。同法人の他のグループホームとは、情報交流や人材支援などを行っており、他事業所の取り組みを知る機会になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前及び入所時には施設での生活の様子を伝え、利用者が不安に感じていることの聴取及び解消に向けて関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前及び入所時には家族の不安等に耳を傾け、その不安の解消に向けて関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で、ご本人やご家族の意向を考慮しつつ、現状を見極め、必要とされるサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを念頭に置き、職員はご本人が笑顔で過ごしていただけるように信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と情報共有することで一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出、電話等の手段を用いて、利用者と家族、友人等が交流する機会を尊重し、関係性の継続を支援している。	面会は予約制で行っている。入居者は地元に住んでいた人が多く、馴染みの場所を散歩したり、馴染みの商店で買い物を楽しんだりしている。家族との通院時にドライブや外食をする人や自宅に寄って来る人、週末には外泊する人もいる。理・美容の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の生活歴や性格、病気等考慮しながら利用者同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談を受けた際は、ご本人やご家族のフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いに耳を傾け、意向の把握に努めている。	日々の会話の中から入居者の希望や意向を把握するように努めている。把握したことは申し送りノートに記載し、職員間で共有し支援に活かしている。思いを言葉にできない利用者へは、日常生活の中での表情や仕草を見ながら声がけしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査でご本人やご家族に生活歴や生活環境の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方、心身状態、ADLを把握し、その人らしい暮らし方の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえ、職員とコミュニケーションを図りながら状態把握を行い、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	入居者や家族の意見を反映した介護計画を作成している。毎月のユニット会議のコンファレンスで入居者の状態をモニタリングし、半年ごとに見直している。入居者の状態が変化した際は、都度見直しを行っている。見直し後は家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトへの入力、ユニット会議でのケアの検討から状態変化等情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスが前提ではあるが、その上でご本人やご家族のニーズにできる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される100縁商店街や互市に歩ける方は歩いて参加し、豊かな暮らしに向けて支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を大切にしている。その上で職員やご家族の協力のもと、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者や家族が希望する医療機関への受診を支援している。通院は基本家族が付き添い、看護師が要約した入居者の状態についての情報を持参し、適切な医療が受診できるよう支援している。受診後はケース記録や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。特養の看護師が週1回訪問し、入居者の健康管理や職員の相談を受け助言している。また、法人が契約している訪問看護ステーションと、24時間オンコールの体制が整えられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との情報共有を行い、適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報共有を行い、安心して治療を受けていただけるように努めている。また、入院中の情報共有を行い、退院後もスムーズに支援できるように医療機関と調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は看取りを行っていないことは申し込みの時点で説明し、ご理解頂いている。重度化した場合はご家族、かかりつけ医、訪問看護師等と相談し、医療機関への転院など連携して支援に取り組んでいる。	入居時に、入居者や家族に事業所では看取りを行っていないことを説明し、同意を得ている。重度化した場合には、家族やかかりつけ医、訪問看護師と相談し、医療機関への転院や同法人の特養への入所など連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、指針等は整備してあるが、定期的な実践的な訓練は行えていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯想定での避難訓練を年2回実施している。	火災・風水害・地震・原子力災害対応マニュアルが作成されている。避難訓練は年2回、内1回は夜間想定で行われている。地域住民の参加が得られていないので、運営推進会議で議案にし検討している。設備点検は年2回、業者が行っている。非常食は3日分備えており、隣の特養にローリングストック方式で備蓄している。感染症対策委員会が中心になり、防護服の着脱などの訓練を行い、蔓延防止に取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室する際はノックや声掛けをしたり、入浴や排泄の際にはプライバシーに配慮した対応を行っている。	接遇やプライバシー保護の研修を年1回行い、一人ひとりの尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。居室への入室は、ノックと声掛けを行い、排泄介助や入浴介助は、プライバシーに配慮して行っている。呼び名は、苗字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物や入浴時の衣類の選択等自己決定ができるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて入浴、食事、離床時間等と考慮し希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択等ご本人の意思を尊重している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行うが、後片付けや食器拭きなどを利用者様に手伝ってもらうこともある。誕生会等の行事の際は手作りおやつ調理を行っている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、隣の特養の給食室で調理したおかずが届く。ごはんと汁物は事業所で作り、入居者の状態に合わせて、きざみ食やとろみ食などに対応している。毎月、季節に合わせて郷土食を楽しんだり、誕生日には手作りケーキでお祝いしている。事業所の畑で収穫した野菜や地域住民からの差し入れの食材も調理に活かし楽しんでいる。入居者は、おしぼりたたみや食器拭きなど、できることを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスについては施設の管理栄養士が対応しており、相談やアドバイス頂いている。水分補給は1日1500～1800mlを目安に摂ることができるように進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きを行うことができる方には声掛けし、できない方に対してはブラッシング等一部介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しタイミングに合わせて声掛けをしたり、日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表で一人ひとりの状態やタイミングを把握し、声掛けやトイレに誘導している。夜間帯は、ナースコールや人感センサーを活用したり、睡眠を重視し大きめのパッドを使用したりしている。便秘対策として、食事に牛乳など乳製品を摂り入れ、水分量のチェックもしている。便秘気味の入居者には、看護師に相談して医師の処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促せるように水分補給に努めている。また、必要に応じて服薬調整を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2回の入浴を原則としている。入浴時間や体調に配慮し、声掛けの工夫をしながら楽しんで入浴できるように支援している。	入浴は、週2回が基本で、午前か午後、入居者が希望する時間帯で行っている。湯は一人ひとり替えて、入浴剤なども活用して楽しんでいる。入浴は入居者とゆっくり話ができる場になっている。入浴拒否の入居者には無理強いせず、声掛けを工夫して脱衣所に誘導したり、時間をおいて声掛けをしたりしている。体調の悪い場合には清拭や足浴に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた生活習慣や体調等を考慮して休息したり、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の内服状況の確認ができるように一覧にし、服薬状況の確認と症状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や残存機能を活かし、役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体制が許す時には、散歩や外出を個別に行っている。また家族と協力し、食事へ出掛けることもある。	天気の良い日は、事業所のそばを流れる内川周辺を散歩したり、近くの商店街に買い物に出かけたりしている。近隣の景勝地にドライブに出かけ楽しむこともある。通院時に、家族と一緒に外食を楽しむ人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では入所の際、現金の所持や管理をお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話や手紙のやり取りできるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有空間には季節に合わせた装飾をし季節感を感じられるようにしている。明るさや温度・湿度は利用者の意見を聞きながら職員が管理している。	リビングは明るく清潔に保たれている。壁には、季節の飾り付けや入居者の手作り作品などが飾られている。時計や日めくりカレンダーは見やすいよう、見当識に配慮し取り付けられている。入居者がゆっくり過ごせるよう座席も工夫している。YouTubeで懐かしい番組や最近の歌番組など見ながら、一緒に歌って楽しんでいる入居者もいる。温・湿度管理や換気は職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールでは仲の良い利用者様同士を隣同士の席にしたり、1人になりたい時は居室で過ごしたり、仲の良い利用者様と居室で過ごされることもある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやぬいぐるみ等使い慣れた物や好みの物を持参していただいたり、工作等自分で作ったものを飾ったり、居心地の良く過ごせるように工夫している。	居室にはベッド、整理タンス、洗面台、エアコンが設置されている。ベッドや家具の場所は、入居者の希望や導線を考えて配置している。入居者はテレビや馴染みの家具などを持ち込み、その人らしい部屋にしている。温・湿度管理や衣替えは居室担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除やリネン交換、下膳等できることを活かすように努めている。居室やトイレが分からなくなる利用者様に対しては張り紙やきっかけで思い出せるよう支援している。		